

# ローン・セカンダリー市場の創造へ

○四年中のシンジケートローン組成額は一九・六兆円に達した。シ・ローン市場が本格的に拡大し始めたのは九九年ごろといわれ、この五年ほどの間にめざましい成長を遂げたといえる。だが、高い流通性をそなえ

もつシ・ローンの本来的な機能が発揮されるにはローン・セカンダリー市場の活性化が必要となる。最近のシ・ローン市場とセカンダリー市場の動向とホットイシューを紹介する。

## シンジケートローンは新たな発展段階へ

### 企業の資金調達と銀行の能動的ポートフォリオ・マネジメントにメリット

本邦シ・ローン市場は、プライマリー市場を通じた借入人の裾野拡大という第一フェーズを経て、セカンダリー市場の本格的な立上げを見据えた新たな発展段階を迎えている。プライマリー取引によって提供された資金およびリスクを、セカンダリー市場を通じて効率的に再配分し、信用創造余力を高めていくという点で、プライマリーとセカンダリーは「車の両輪」といえる。しかしながら、わが国では貸出債権を対象とした売買行為そのものに対する心理的抵抗がまだまだ根強く、社会全体の意識改革を含めて取り組むべき課題は少なくない。本稿では、わが国のシ・ローン市場が今後とも順調かつ健全に発展していくうえでの課題について、セカンダリー市場を中心にまとめてみた。



東京三菱銀行 シンジケーション部

次長 林 洋之



## プライマリー市場の発展

### 中堅企業への裾野拡大

本邦でシ・ローンが拡大基調に入っただのは九九～〇〇年ごろ

である。当時の市場全体における年間組成額は四兆円規模であったが、〇四年度には約三兆円とわずか四～五年で五倍以上の急拡大をみせている。市場関係者の間では、シ・ローンが法人向け貸出の三割を占めるに至

っているアメリカでの先例から、本邦マーケットも今後数年間で五〇兆円規模にまで成長するとの見方が多い。市場拡大の背景としては、多

# 高流動性シンジケートローンによる 資金調達成果と課題

## 多様な参加行・投資家からの着実な手応え

本稿は、ローン・セカンダリー市場育成の意義を、金融市場を利用する企業金融側の視点から検討してみたものである。その具体的事例として、三菱商事が昨年二月および本年六月に実施した、ローン債権の売買を前提とした新型のシンジケートローン（高流動性シンジケートローン）による資金調達（合計八〇〇億円）を取り上げた。高流動性シンジケートローンについては、すでに一部のメディアを通じて紹介されているが、本稿ではあらためてその商品性について整理し直し、ローン・セカンダリー市場の意義、ローン債権売買に対する意識変化の必要性 について述べる。

### 三菱商事

### トレジャラーオフィス

### 資金為替市場室

### 市場対応型の 資金調達手段

環境が変われば、自らも対応していかねばならない。未来の変化を先取り行動することが、あらゆる分野で求められている。そして、われわれ企業金融も金融の枠組みの変化に柔軟に対応していくことが求められる

ている。

### グローバル化の進展

により、地殻変動的な変化が世界中で生ずる時代となり、日本だけがその影響を受けないですむ時代ではなくなりつつある。直接金融に比べ間接金融が圧倒的な幅をきかせる日本の金融市場では、新しい金融の枠組みに備えた対応が必要である。「満

期まで持ちきってほしい」「満

期まで貸しきる」という伝統的

なローンの考え方も依然として

大事であり地域によってはその

要請が高いのも事実だが、一方

で、間接金融のなかに「市場感

覚」を徐々に取り込むことが要

請されていくだろう。

そついつ意味で、ローン債権

そのものが売買可能となる工夫

を施す必要性と、セカンダリー

市場を育成しその売買が円滑に

行われる仕組み（高い流動性を

維持させる仕組み）がきわめて

重要な意味をもつことになる。

このよつな認識のうえに立ち、

当社はローン債権の売買を前提

とした新型のシンジケートロー

ンである「高流動性シンジケ

ートローン」による資金調達を実